

令和7年度 別府市高校生 サマースクールプログラム報告書

訪問先: 英国・ニュージーランド ロトルア市
期 間: 令和7年7月19日(土)～8月10日(日)



～Bath～



～Rotorua～

目 次

研修日程	・ ・ 1
------	-------

報告書（バース）

大分県立別府翔青高等学校	1 年	廣瀬 紗希	・ ・ 2
--------------	-----	-------	-------

報告書（ロトルア）

大分県立別府鶴見丘高等学校	2 年	首藤 希々佳	・ ・ 7
---------------	-----	--------	-------

大分県立別府鶴見丘高等学校	2 年	中島 未結	・ ・ 1 1
---------------	-----	-------	---------

大分県立大分西高等学校	1 年	佐藤 来依羅	・ ・ 1 5
-------------	-----	--------	---------

学校法人別府大学明豊高等学校	1 年	干潟 凜子	・ ・ 1 9
----------------	-----	-------	---------

別府市高校生サマースクールプログラム研修日程表(バス)

日 時	都 市	時間	ス ケ ジ ュ ー ル
1	7月19日 (土)	別府市 大分空港 羽田 ヒースロー	5:55 別府市役所出発（別府市職員同行） 6:40 大分空港着 7:40 大分空港発 9:15 羽田空港着（別府市東京事務所職員と合流） 13:05 羽田空港発 19:55 ヒースロー空港着（バス・別府友好協会職員と合流） ホテルへ移動 ホテルチェックイン
2	7月20日 (日)	ロンドン バス	ホテルチェックアウト パディントン駅へ移動 ロンドン市内視察 パディントン駅発バス市へ移動 ホストファミリー宅へ ホストファミリーと面会
3 ～ 21	サマースクール受講		
22	8月9日 (土)	バス ヒースロー	4:30 バス発ヒースロー空港へ 7:00 ヒースロー空港着 9:20 ヒースロー空港発
23	8月10日 (日)	羽田 大分 別府	7:00 羽田空港着 国内線ターミナルへ移動 9:50 羽田空港発 11:25 大分空港着（別府市職員出迎え） 11:45 大分空港発 12:30 別府市役所着

別府市高校生サマースクールプログラム研修日程表(ロトルア)

日 時	都 市	時間	ス ケ ジ ュ ー ル
1	7月19日 (土)	別府市 大分空港	11:30 別府市役所出発（別府市職員同行） 12:15 大分空港着 13:15 大分空港発 14:55 羽田空港着（別府市東京事務所職員と合流） 羽田空港発 成田空港着 20:00 成田空港発
2	7月20日 (日)	オークランド ロトルア	9:25 オークランド空港着 出発ゲートにて現地担当者で合流 空港発陸路ロトルアへ（約3時間） ロトルア着 ホストファミリー宅へ ホストファミリーと面会
3 ～ 21	サマースクール受講		
22	8月9日 (土)	ロトルア オークランド 成田	4:00 ロトルア発陸路オークランドへ（約3時間） 7:30 オークランド空港着 10:15 オークランド空港発 18:15 成田空港着（東京事務所職員と合流） ホテルチェックイン
23	8月10日 (日)	成田 大分 別府	ホテルチェックアウト ホテル発シャトルバスにて成田空港へ 7:35 成田空港発 9:30 大分空港着（別府市職員出迎え） 9:45 大分空港発 10:30 別府市役所着

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府翔青高等学校 1年 廣瀬 紗希

現地研修

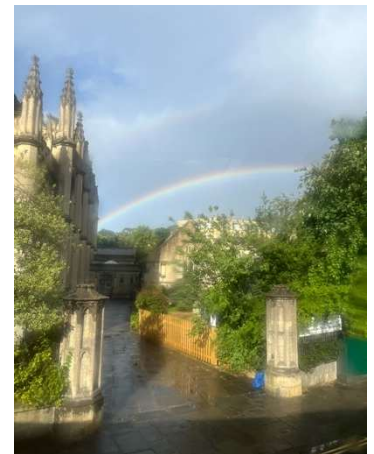
◎ロンドン

飛行機から降りて、初めての景色がロンドンでした。初めて見たとき別府では絶対に見ることのできない景色だし、今までに見たことがなかったのでもって驚きました。周りを見渡せばお城みたいな建物があって、まるで別の世界にいるみたいでした。信号機があるのにも関わらずみんな信号無視をしていたことにも驚きました。



◎バース

とても綺麗な街で毎日の登下校や放課後や休日のお出かけがとても楽しかったです。また、自然が多く空気が新鮮で暮らしやすくもありました。道路が広いため車を止められたり、バスがたくさん通っていて交通手段にも困ることはありませんでした。Bath college に近いところにクッキーなどのお菓子屋さんやお土産屋さんが多く並んでいたため、放課後によく友達と遊んだことが思い出ですごく心に残っています。



◎コッツウォールズの村（レイコック、キャスルクーム）

ここは私がこの留学をするときに必ず行きたいと思っていたあこがれた街でした。古くからの建物がとても綺麗に残っていて、小さい村だけどその中に宿る神秘を見つけられた気がします。しかしバースに比べて道が狭かったので交通のことに困るかなと思いました。建物の間を馬が通ったり、お花やガーランドで鮮やかに魅せられていて本当に素敵でした。機会があればぜひもう一度行きたいです。

◎オックスフォード

オックスフォード大学を見ました。ガイドさんがたくさん英語で説明してくれましたが、とても速くてなんと言っているのか理解できませんでした。聞こうと思っても次に進んでいたのでも聞けませんでした。しかし目で見たものはしっかりわかりました。とても大きな大学で街の情景を崩さないとても綺麗な建物でした。



◎ブリストル

町中どこを見渡してもスプレーアートがありました。どれも個性的で見渡すだけで楽しかったです。そしてこの街はエンジンの音がすごく響いていました。しかしガラの悪い人はあまりいなかったです。ブリストルに行く前に授業で少しスプレーアートについて考えました。スプレーアートと聞くだけで治安が悪いイメージがあるけどそんなことはないんだという考えを持ってブリストルにいったのでとてもいいなと思いました。

学校体験

私にとって最初の1週間はサバイバルでした。

ホストファミリーと出会って間もなくドキドキで始まった学校生活1日目は地獄でした。日本人が誰もいない中、すごく早くて難しい単語が多い英語を理解するしか道がなかったからです。私はまだ未熟なのでわからないところがあったときに正直にわからないと言えません。そんな勇気すら出せない自分と英語が全くわからない自分にイライラしてものすごく泣きました。そのときに学校の先生が

「ここにいる生徒はみんな英語を学びに来ているのだからそんなに心配しなくても大丈夫だよ。1人でここまで来てよく頑張っているね。」と私に紅茶をくれて慰めてくれました。先生だけでなく、同じホストファミリーのお友達も

「大丈夫。なにも緊張することなんてないよ」と慰めてくれました。

結局その日は授業に戻れなかったけど、ランチタイムに新しいお友達ができました。みんな話すスピードが速くてなんて言ってるのか聞き取れませんでした。

聞き取れなかったから何度か質問をしました。それでも友達は何んどもくさがらずに私の質問に何度も答えてくれました。このときに少し私の心は軽くなりました。その後の授業もやっぱり私にとっては難しすぎてあまり理解できませんでした。しかし先生や友達に何度も質問してなんとか追いつけるようになりました。

1週間がたったあたりで、午後のアクティビティーや夜のアクティビティーを通して友達との仲がさらに深まり学校生活も楽しくなってきました。この1週間で今まで一緒にいたポルトガルの留学生とお別れの時間がやってきました。最初は騒がしいし英語を全く話さず、団体に母国語しか話さないから少し苦手だと思っていました。しかし場を盛り上げてくれたのはいつもこの子達でした。そして、ポルトガルの留学生がいなくなる最後の金曜日にはdiscoに行きました。あまりいいイメージがありませんでしたが実際に体験してみるととても楽しかったです。そこで仲が少し深まったと思ったのにお別れだったので悲しかったです。



2 週間目にはアルジェリアの留学生が団体で来ました。また前と同じように少し嫌だなという気持ちがありました。しかし彼らは私に積極的に英語で話しかけてくれました。そこで英語で話すのはこんなに楽しいものだったなと、日本にいたときと同じ感覚になりました。1 週間目にはあまり仲良くなかった子も、私がだんだんイギリスでの生活に慣れてきたことでたくさん話せるようになり仲が深まりました。そしてこの週は同じホストファミリーのお友達が帰国してしまう最後の週でした。なので全力で楽しもうと心に決めていました。たくさん笑って楽しく 2 週間目を過ごしました。最後の 3 週間目は本当に寂しかったし、時間があっという間でした。いつの間にか 1 日が終わっていて、友達とのお別れがもうすぐなのだと実感しました。迎えた最終日は朝からホストマザーとのお別れがあり、学校でもずっと友達と泣いていました。夜の活動のサマーエンドパーティーでは友達と最後の時間を過ごし、友達からプレゼントをたくさんもらいました。せっかく仲良く慣れたのに離れてしまうのが本当に悲しかったです。



私がここまで学校生活を楽しめたのは午後のアクティビティーや夜のアクティビティーで友達の仲を深めたからだと思います。もしこれらがなかったら私はみんなの輪の中に入ることができなかったかもしれません。授業ももちろん大切ですが、仲を深めるためには友達とゲームなどで協力したり戦ったりして笑うことがすごく大切だと気がつきました。この 3 週間不安がとても大きかったけど、私は 1 人だったからこそ強くなり、色々な国の人と友達になったり、言語や文化を学ぶ事ができました。このプログラムに参加して本当に良かったです。



海外派遣について

研修目的

違う国の街並みや匂い、人の雰囲気や文化を体験したいと思いました。バース市は、別府市の姉妹都市であることに加え、イギリス唯一の温泉地であるなど、親しみのある街だからです。それに加えて色々な国の宗教や言語、文化をこの留学を通して学びたかったからです。

バースでの体験



古代ローマ時代の温泉施設の跡であるローマンバスに実際に足を運びました。この留学中に温泉について触れる機会があまり多くはなかったなのでこの行ける機会を大切にしました。そして意外だったのはバース市というくらいだから温泉を使う人が多いのかなと思っていましたが、そもそもお風呂に毎日入るという習慣があまりないため全然使われないことを知りました。

派遣の成果と今後の課題

今回この留学でイギリスについて学んだだけでなくスペイン、サウジアラビア、ポルトガル、アルジェリア、中国、トルコ、ドイツの国の留学生と出会えて、それぞれの国の言葉や宗教についてたくさん学びました。お肉を食べれなかったり、1日に何度かお祈りをしなければならなかったりその国独自のルールや文化、言語がたくさんあります。このような独自の文化を身をもってしっかりと理解したのでまずは身の回りに共有し、みんなが受け入れられる社会をつくっていきたいです。



Changed my life with this experience

I spent three weeks in Bath city in Britain. The first week was like a survival for me.

I didn't know how to approach to make friends. There were a lot of groups of people with different nationalities, and they had their own circle. They spoke their own languages instead of speaking English, so I was stunned to see that. At first, I thought that in Britain only English was spoken but later on I got to know that many students are from different countries, so other languages were also spoken. After some days, some students came to me. After having a lot of conversation, I realized that communication is a key to make a lot of friends. From that moment onward, we became good friends, and I felt less nervous.

After having a lot of fun talks,I went to Disco party where all the classmates were present.

From there, I was able to make more friends. We danced, did some Karaoke and played various games such as ping pong, guessing the words by body language, truth and dare etc.

It was a really wonderful and precious moment to me. I didn't expect to make these many friends. I was afraid that this beautiful moment would end soon. When my journey finally came to an end, I felt sad and already started missing that beautiful place.

I was already connected with my friends and host family, so I felt really sad when it was the time for me to leave. I appreciated that moment and thanked my host family and school friends for making me feel like their own family. When I arrived back in Japan, for a few days I still missed them really bad. But I was also eager to meet my friends in Japan.

Even after, coming to Japan, the friends I made are still in touch with me. After some days, my teachers and family were curious about my trip, so I had so much fun sharing my moments with them.

This was my trip to a wonderful land, Britain

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府鶴見丘高等学校 首藤 希々佳

留学による自身の成長

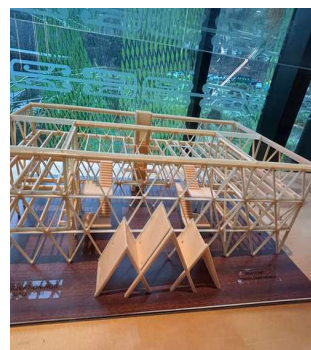
私は今回別府市の姉妹都市であるニュージーランドのロトルア市へ3週間訪れました。そこではたくさんの経験や成長を得ることができました。

日本との違い

自分が海外へ行き驚いたことは3つあります。1つ目は「時間の早さ」です。私たちはロトルア市内にある「Western Heights High School」へ二日間見学させて頂きました。その学校では授業の終わる時間が15時と日本とは大違いでした。他にもホストファミリーの仕事も日本と違って仕事が早く終わり、19時には就寝時間と睡眠時間が日本と違って、健康的に過ごせました。

2つ目は「自然の多さ」です。日本も自然が多いと感じますが、ニュージーランドではよりいたるところに自然を感じる植物や動物がありました。実際私は牧場へ行き、餌やりや羊の毛刈りなどを体験することができました。ニュージーランドは広大な土地を持っており気候条件も適切であるため酪農大国であることに納得がいききました。

3つ目は「税金の使われ方」です。私たちはオークランド空港からロトルア市へ行くまでに高速道路を使いました。道は整備されておりとても平坦な道路でした。快適なドライブを楽しんでいた私は料金所がないことに気がつきました。疑問をガイドさんに聞いてみるとニュージーランドでは高速道路が税金によって補助されているそうです。その他にも気になり調べてみると、医療費が基本無料と日本とは違う点が多く見られました。



研修目標

私は、このプログラムに「建築」について学びたいと思い、参加しました。実際にニュージーランドの家は2階建ての家が少なかったです。私はホストファミリーに2階建て以上の斬新さ、メリット、耐震構造について伝えました。やはり日本と海外の価値観や考え方も違い、自分の思いを全部伝え切るのは難しかったです。しかしいいディスカッションができたと思うので、これから自分の意見をしっかり持ち、伝えて行こうと思います。

ホームステイ

現地の人とより交流できるホームステイについて私はとても興味を持っていました。最初は不安がありましたがホストファミリーは本当の家族のように接してくれ、英語の文法まで一緒に話しながら教えてくれました。伝えようとしていることをしっかり受け止めてくれて理解してくれたホストマザーには感謝の気持ちでいっぱいです。休みの日にはクイラル公園で足湯に浸かったり、サッカーやホッケーの試合を見たりしました。



プログラム

別府市のプログラムで留学に行けたことをとても好機に恵まれたと思っています。別府市でのプログラムでは植林活動や博物館、自然との関わり、現地のユースグループとの交流などたくさんの経験をさせていただきました。経験するまで感じたことがなかった環境改善の難しさ、自然と共に共存するための課題、伝統文化マオリの継承などについて真剣に考えることができました。



植林活動では地元のボランティア活動の方々や他国の観光客たちなどとポフツカワの苗木を植え、その後バーベキューをして交流しました。私たちが大人になった頃に丁度苗木が成長するらしいので、またニュージーランドへ訪れ、成長した木を見ることが楽しみです。



ティーンエイジャーの学生とSDGsについての考え方、感じ方、課題改善の方法など議論しました。マオリの伝統文化についても一緒に踊ったり、歌ったりしてとても印象に残りました。

私たちが通ったRotors English Language Academy (RELA)での午後プログラムについても様々な国のクラスメイトと英語でコミュニケーションをとりながらゲームをしたり、ボウリングやトランポリンで遊んだり、とても仲良くなれて楽しかったです。



旅を通して

旅中で自分は「自信」という感情がより芽生えました。ニュージーランドの人々は他人に興味・関心を持っており、自分の発信したいことを相手を意識した交流の仕方などを通して上手く伝えることができました。しっかり自分の軸を見てくれていると感じられ、とても過ごしやすかったです。

この3週間はこれまでの人生の転機となったと感じます。これまでの囚われた固定概念を壊すようなアグレッシブな経験は高校生のうちに体験できて本当に良かったと思います。これからも英語力を向上させ、グローバルな考え方でいつでも使えるように身につけていきたいです。



留学体験による成功

私は留学の経験を活かして帰国後、市内で困っていたインドネシア人を英語で道案内、宿泊予約のお手伝いをしました。今までなら英語を話せず、案内などできなかったでしょう。しかしコミュニケーションを取り、まで出来たことは留学経験のおかげだと考えています。この短期間でここまで成長できたのはとても嬉しかったです。



私たち子供が今できることは少なく、難しいことも多いと思います。しかし、自分のやりたいことをしっかり伝え、失敗してもいいので、やりたい時に挑戦してみることがこの留学経験を通して一番大切だと思いました。ぜひ留学を考えているならすぐに行動してみてください。どのような結果であれ、行動した自分に自信がついてくると思います。応援しています。

If I were to live abroad.

Shuto Nonoka Oita Prefectural Beppu Tsurumigaoka High School

Through this study abroad experience I became interested in living abroad in the future.

Life in New Zealand was very easy and I had no problems with relationships.

In Japan, I often compared myself to others and felt negative.

I realized how important it is to think only about yourself without looking around.

It's relaxing to be surrounded by people who don't know anything about you.

I would like to try going abroad to refresh myself, just like many people who get tired of life in Japan.

In the end, it's important not to get tired.

I want to take my time thinking about going abroad and making plans for the future.

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府鶴見丘高等学校 2年 中島 未結

今回このサマースクールプログラムに参加して、学んだことがたくさんあった。現地で出会った人々、一緒にこのプログラムに参加した3人、準備から帰国までサポートして下さった文化国際課の皆さん、現地でたくさん助けて下さった Yumiko さん。全ての人へ感謝を伝えたい。

マオリ文化

ニュージーランドでの活動の中でも印象に残っているのはやはりニュージーランドの代表的なマオリ文化だった。マオリに関係する3つの場所を訪れ、彫刻や湖、儀式などについて知った。特に印象に残っているのはホストマザーがロトルアにあるいくつかの湖を紹介して回ってくれたことだ。たとえば代表的なロトルア湖はその中心にあるモコイア島が、マオリ伝説「ヒネモアとツタネカイの恋物語」の舞台になっていたり、ロトカウリという緑の湖はマオリにとって神聖な湖（タブ）とされていることなどを丁寧に教えてくれた。学校の教科書やネットでは知れないその場の空気感を自ら肌で感じることができ、本当に良い経験になった。その他にも現地の学校でマオリ文化の歌・踊りを体験したり、マオリであるロトルア市長を訪問したり、ホストマザーがマオリであったり、ロトルアへ行く前に思っていた「先住民族だから今はあまり関わることはないのかな」という考えがいい意味で覆された。同時に、これまで語り継がれ彼らの生活に根強く残っているこの文化は必ず守っていくべきだ、とも強く思った。



ホームステイ

留学前から思っていた不安な点として、ホームステイ先を挙げていた。知っている人のいない家の中で3週間も過ごすのはもちろん初めてだったからだ。初日に各ホームステイ先に直行だったのでその時が1番緊張した。しかしいざホストマザーに会うと聞き取りやすい英語と穏やかな雰囲気から緊張がすぐにほぐれた。現地では週末にホストファミリーとの時間があった。その時にホストマザーの娘さん一家とフィッシュアンドチップスを食べたことがとても楽しかった。



ジャパニーズカルチャーとしてけん玉を紹介すると、楽しそうに遊んでくれた。毎日お昼ご飯を用意してくれたり、日本についての知ろうとしてくれたり、ホストマザーには本当に感謝している。自分も将来異国の学生のホームステイを受け入れたいと思った。



学校生活

3週間平日は毎日 Rotorua English Language Academy (RELA)に通った。クラスメイトには中国、フランス領ポリネシア、ニューカレドニアなど様々な国籍を持ち、様々な年齢の人がいた。授業内容も日本での英語の授業と似ていた。毎週金曜日の午後は課外のアクティビティでボウリングやスパに行き、先生や生徒と交流を深めることができた。スパはロトルアの贅沢な湯に浸かることができ、とてもリラックスできた。また、現地の学校ロトルアウエスタンハイツハイスクールを訪れ、普段の生徒の学校生活や授業の見学もした。体育の授業に参加してバドミントンをしたり、音楽・美術・スペイン語の授業も見学した。みんな暖かい人だった。休日は植林体験をしたり RELA の学生とトランポリンをしに行ったりピザを食べたりなど、とても充実したものだった。

心理カウンセリング

ニュージーランドの心理カウンセリングについて知るために、ロトルアウエスタンハイツハイスクールのカウンセラーの先生とお話しさせてもらったり、ユースセンターを訪れた。ニュージーランドのカウンセリングの日本のものとの共通点は、資格や学位を持った人がカウンセラーとして活動すること。相違点は、日本はカウンセラーや臨床心理士が国家資格であり、カウンセリングの目的は「その問題の原因を丁寧に掘り下げること」であるに対し、ニュージーランドでは大学・大学院専門課程履修ののちにカウンセラーになれば、カウンセリングの目的は「相談者の生活をどう良くするか」であった。実際に外国の教育カウンセリングを知見して1番感じたことは、日本と比べて利用者数が圧倒的に多いことだった。理由は明確で、日本は何か悩み相談することのハードルが高く認識されていることから相談する人数が単純に少ないのに対し、ニュージーランドでは声をあげやすい環境と人々の性格がある。多くの学校や職場にカウンセラーが常駐しており、私たちが訪れたウエスタンハイツは常に3人、学校や家族などの項目でスクールカウンセラーの方々が役割分担をして生徒の支援にあたっているらしい。環境の面でも、相談したいことを紙に書いて入れられるボックスが設置されていたり、辛い時にゆっくり自己解決するためのステップが掲載されているパンフレットも置いていた。どれも日本ではあまり見ることもない、ニュージーランドならではの対策だった。留学前に現地の精神疾患患者数について調べ、ニュージーランドの精神疾患患者数は世界上位であることがわかっていたが、それは気軽に気づいてもらえる環境の裏返しであるのではと思った。また、現地に行ってより教育心理学の面に興味が湧き、より多くの人と関わってサポートしたいと思った。おそらく学生として周りとの「違い」と向き合ったからだろう。将来の視野が広がる経験となった。

自然環境

ロトルアではたくさんの壮大な自然を感じられた。タウポ湖のダム の現地でも有名なミルキーグリーン色の水は、岩の粉と太陽光の反射によって形成されており、実際に見るとすごく綺麗な色だった。また、街中に別府の地獄とよく似た池も見ることができた。マオリ文化を肌で感じられる Te Puia ではパ・ホイ間欠泉の地熱活動が有名で、約 1 時間ごとに間欠泉が吹き上がり、最大 30 メートルの噴水を見ることができる。運よく高い噴出を見ることができた。街中でもあらゆる場所から湯気がたちのぼる様子を見ることができて、別府と似た点を発見することができた。

初めての海外、初めての長期外泊など沢山初めてのことがあったが、そのひとつひとつに 1 人の人間として向き合えて自身の成長につながったと心から感じる。他者との違いに触れ、沢山考えたこの経験を生かして文化や言語、価値観の違いに悩む人々の相談に乗ったり、肯定してあげられるような職業に就きたいと思っている。



What I Learned in Three Weeks

Nakashima Miyu,Tsurumigaoka High School

During my first year of high school in Japan, I often wondered, "What will I become in the future?" I like listening to people and helping them, but I didn't know what job could make the best use of this. That's why I joined this study abroad program.

At first, I was nervous about my host mother and classmates. But I kept telling myself that I came to New Zealand for this experience, and I worked hard on my listening and speaking skills.

The people in New Zealand were very kind. On my first day going to school by bus, my host mother even came with me to make sure I got on safely. From the next day, a woman who rode the same bus helped me every day. My classmates also gave me snacks and letters.

I made many mistakes, but thanks to the support of so many people, I was able to keep going. My goal was to face difficulties about differences, but through interacting with people from many countries, I discovered my dream: to become a counselor.

This study abroad experience gave me a dream.

From now on, I want to live helping and supporting many people.

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立大分西高等学校 1年 佐藤来依羅

今回私は7/19～8/10までの3週間ニュージーランドのロトルア市に滞在しました。初めてのことはかりで不安なことがたくさんありましたがこの3週間はとてもいいものになりました。

【学校生活】

私はRotorua English Language Academy (RELA)に通いました。話すのも聞くのも読むのも全て英語の授業、はじめはついていけるか不安や緊張がありました。が先生やクラスメイトがとても明るくてすぐに不安や緊張はなくなっていきました。

クラスメイトはフランス領ポリネシア、中国、サウジアラビアなど様々な国籍の人がいて、年齢もバラバラでしたがすぐに仲良くなることが出来ました・毎週金曜日は午後が授業ではなくアクティビティに変わり、私は巨大迷路、ボウリング、スパに参加しました。

自分たちだけではなかなか参加しづらいものを体験できてよかったです。休憩時間や放課後は友達と話したりゲームをして遊びました。お互いの第一言語は違いますが英語を通してたくさんのコミュニケーションをとることができました。



【ホームステイ】

ニュージーランドに行く前から現地の人の生活を身近に体験できるホームステイにとっても興味がありました。順番に各ホームステイ先の家に行き、他の人のホストファミリー達を見て、自分のホストファミリーに会うのがとても楽しみでした。



ホームステイ先の家に着くとホストマザーとフランス領ポリネシアから訪れていた留学生の女の子が迎えてくれました。

初日は日本からのお土産を渡したり日本についての話をしました。拙い英語だったと思いますが、笑顔で話を聞いてくれてとても嬉しかったです。

女の子からは貝殻のネックレスとオイルをもらいました。初めての外国の人からのプレゼントで、とても気に入ってネックレスはずっとカバンにつけていました。その他にも通学のことや学校での課題などたくさんのことを教えてくれてとても感謝しています。

週末はホストマザーが遠くのショッピングモールに連れて行ってくれました。見たことのないものが売っていたり海外のファッションだったりを見れてとても楽しかったです。行き帰りの景色もとても綺麗でした。

誕生日にはケーキをプレゼントしてくれたり、夜にはその日あったことの話しをしたり、猫と一緒に遊んだり、3週間とてもいい経験をさせてくれて本当に感謝しています。

【学校外の活動】

2週目からは午後、ロトルアの様々な場所に訪れました。訪れていくなかで自然とマオリの文化をととても尊重していると感じました。

ずっと行きたいと思っていた Te Puia ではマオリの人達の歴史や実際に彫刻をしているところを見ることができました。彫刻師になるにはマオリの人達しか出来ないことや、マオリは文字をもたない民族だったため模様で表したことで、マオリの人達がどうやってニュージーランドに訪れどのような生活を送っていたのかなど、調べただけでは全部知ることができない情報などを現地で知ることができました。そして国鳥であるキーウイも見ることができました、夜行性のため暗い空間であまりはっきり見ることは出来ませんでしたがとても貴重な体験をすることができました。



週末はロトルア湖の周りで植林をしました。風に吹かれながらみんなと協力して行うのは大変でしたが楽しかったです。日本ではなかなか行うことが出来ないので経験できてよかったです。

放課後には一緒にプログラムに参加した3人と土産屋やスーパーマーケット、ショッピングモールに行き、家族や友人への土産を買いました。



【自然、街並み】

ニュージーランドはとても自然が豊かで街を抜けると羊や牛の放牧をよく目にしました。湖や滝、温泉は水が透き通っていて遠くから見るとミルキーグリーンのような色をしていました。空気がとても綺麗で過ごしやすかったです。

ロトルア市の建物や土地はマオリの文化がうまく織りまぜられていました。ロトルア市はマオリの方達から土地を借りているため土地の活用方法は市が決めるがマオリの文化を融合させることを意識していると市長が仰っていました。そして林業が盛んらしく建物には木が多く使用されていました自然やマオリの文化をうまく融合したとても素敵な市でした。



はじめての海外、はじめての留学だったので緊張することが多かったですがたくさんの人と触れ合うことで価値観が変化したり、留学前よりも自身が成長したと思える場面がたくさんありました。

この3週間の経験を忘れることなく、文化の尊重、国際交流を大切にして進路に活かしていきたいと思います。

What I Learned From Studying Abroad

Sato Raira , Oita West High school

I was excited about my first study abroad experience, but I was also very nervous.

I was worried about whether I could communicate well. But my host family and teachers were kind and spoke to me very carefully, so that nervousness disappeared right away.

I was able to experience so much over these past three weeks.

Experiencing cultures and ways of thinking different from Japan's was incredibly valuable to me.

I've always been interested in the world, but studying abroad made me even more interested.

Experiencing New Zealand's nature up close and interacting with locals—this was something I could never have done alone.

Sometimes I'd feel lonely thinking about my family and friends, or get worn out in unfamiliar surroundings, but the people I met in New Zealand and the three others I traveled with blew those feelings away.

I was able to truly appreciate the importance of connecting with people once again.

I want to continue learning about engaging with the world.

To everyone who was involved with me, thank you so much for these three weeks.

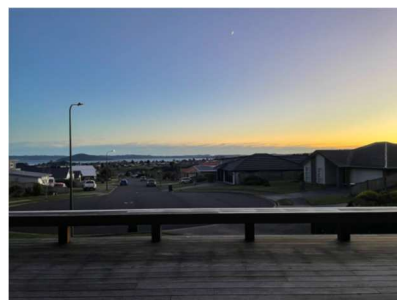
別府市高校生サマースクールプログラム報告書

学校法人別府大学明豊高等学校 1年 干潟 凜子

今回のサマースクールプログラムに参加して、多くのことを学ぶと同時に、新たな価値観を見出すことができた。そして、現地で出会った人々、一緒にこのプログラムに参加した3人、準備から帰国までサポートしてくださった文化国際課の皆さん、現地でたくさんお世話になったYumikoさん、全員に感謝を伝えたい。

ホームステイ

私のホームステイ先は、ホストマザーのYaya、ホストファザーのNeal、そして息子のTeanakiがいる家庭だった。最初の1週間は香港からの留学生が2人一緒に滞在しており、3週間を通してタヒチからの留学生もいた。初めて会った時、私はとても緊張していたが、ホストファミリーは笑顔で迎えてくれ、すぐに安心することができた。彼らはとても優しく、英語が拙い私にも親切に接してくれた。食事は毎食手作りで、どれも温かみがあり、とてもおいしかった。週末にはロトルア市の有名な湖にたくさん連れて行ってもらい、Nealがマオリであることから、マオリ文化についても多く教えてもらった。3週間を過ごすうちに家族の一員のように感じるようになり、帰る時には涙なしでは別れられなかった。



マオリ文化

留学中、私はマオリ文化について学ぶために、マオリの博物館であるTepuia、マオリの村オヒネムツ、そしてウエスタンハイツハイスクールのマオリの授業に参加した。Tepuiaでは、職人が目の前で彫刻をしている様子や、マオリのダンスに欠かせないアクセサリを作っている姿を見ることができ、その技術と伝統の重みを肌で感じた。オヒネムツでは、かつてマオリの人々が集会を開いていた建物や、戦争で亡くなった人々のお墓を見学し、マオリの人々が大切にしてきた歴史や祈りに心を打たれた。ウエスタンハイツハイスクールでは、実際にマオリのダンスの授業に現地の学生と一緒に参加し、最初は緊張したが、体を動かすうちに自然と打ち解け、笑い合いながら交流することができた。これらの体験を通して、私はマオリ文化が単なる伝統や観光資源ではなく、人々の暮らしや心の中に息づいているものであると気づいた。また、自分自身も文化を受け継ぐことの大切さについて改めて考えるようになった。もともとニュージーランドに行きたいと思った理由はマオリ文化を知ることだったが、実際に触れてみて、期待以上の



学びと感動を得ることができた。マオリの人々が自分たちの文化を誇りにし、大切に守り続けている姿に触れ、私も自分の文化をより深く理解し、誇りを持ちたいと強く思った。これらの経験は一生忘れられないものとなった。

学校生活

私が通った学校はインターナショナルスクールであり、さまざまな国籍の学生が在籍していた。初めは自分の英語力に不安があり、授業についていけるか 緊張していたが、勇気を出して発言してみると、周りの学生が温かく受け入れてくれたことを今でもよく覚えている。日本では体験することのできないオールイングリッシュの授業は難しかったが、その分学びの実感も大きく、自分が少しずつ理解できるようになることが嬉しかった。毎週金曜日には学生全員でアクティビティを行い、ゲームやチーム活動を通して自然と仲が深まった。最初は互いにぎこちなかった関係も、笑い合いながら過ごす時間の中で徐々に打ち解け、国籍の違いを越えて友情が芽生えていった。学生たちや先生方はとても親切で、困った時には必ず助けてくれたため、安心して学校生活を送ることができた。この学校での経験は、私にとってただ英語を学ぶだけでなく、世界には多様な価値観や考え方を持つ仲間がいることを実感させてくれた。自分の視野を大きく広げるきっかけとなり、これからも学び続けたいという強い思いにつながった。



自然

ニュージーランドの自然は雄大で、日本とは全く異なる景色が広がっていた。少し郊外に行くと、どこまでも続く広大な牧場があり、放牧された羊や牛がのびのびと暮らしている姿に心を奪われた。水源が豊富で、川や湖は驚くほど澄んでおり、太陽の光を反射してきらめく様子は忘れられない光景となった。特に印象に残ったのはレッドウッドである。そこにはセコイヤスギが空に届くほど高く、奥へ奥へと果てしなく生えており、日本の森とはまったく違う雰囲気圧迫された。日本の森がどこか人の暮らしと結びついているのに対し、ニュージーランドの森は人間の存在を超えた大自然そのものの力を 感じさせた。静けさの中で立ち尽くしていると、自分が自然の一部になったように感じられ、心がずっと落ち着いた。これらの体験を通して、自然を守り続けることの大切さを改めて考えるようになった。ニュージーランドの雄大さと美しさは、ただ感動を与えるだけでなく、人と自然との関わり方について深く考えるきっかけとなった。そこで過ごした時間は、私にとってかけがえのない学びと感動を残してくれた。



建築

ニュージーランドの建築には、マオリ文化が色濃く反映されているものが多く見られた。私がニュージーランドに行きたいと思った一番の目的は、建築とマオリ文化の融合を実際に見ることだったため、その姿に触れることができたのは大きな喜びだった。建物の装飾や意匠の中にマオリの模様や伝統的なデザインが取り入れられており、単なる建築物ではなく文化を伝える存在としての意味を持っていた。また、ニュージーランドの建築は伝統を重んじており、木材が多く使われている点も印象的だった。木の温もりや自然と



の調和を大切にしている姿勢から、人々の暮らしと自然環境、そして文化が密接に結びついていることを感じた。これらの建築を実際に見ることで、建築が単に形や機能だけではなく、その土地の歴史や文化を語るものだということを改めて学んだ。ニュージーランドでの経験は、私にとって建築への興味をさらに深める大きなきっかけとなった。

Learning and meeting people in New Zealand

Higata Rinko, Meiho high school

I studied abroad in New Zealand for three weeks this summer, and had the valuable experience of homestay, school life, and experiencing nature and culture.

My host family was incredibly kind, providing me with homemade meals every meal and taking me to tourist spots on weekends. I was nervous at first, but their warm welcome put me at ease, and I was so sad to leave that I cried when I had to leave.

Learning about Māori culture was also a major goal of my study abroad. In Tepuia, I observed carving and jewelry-making, and in Ohinemutu, I visited historic buildings and graves. At Western Heights High School, I participated in a Māori dance class and interacted with local students, which really made me realize how culture is alive and well in everyday life.

At school, all-English classes and Friday activities allowed me to bond with my international classmates. New Zealand's natural beauty was also impressive, and I was moved by the vast ranches, clear rivers, and towering redwood forests. In architecture, I learned how Māori culture is integrated into traditional wooden buildings, and felt a deep connection with culture and nature.

Through this study abroad experience, I was able to experience diverse cultures and nature, connect with people, and grow as a person. My experience in New Zealand was an invaluable learning experience for me.